

高接ぎ木法によるトマト青枯病防除

平成21～23年度 農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業
「新規接ぎ木法による地域条件に適応したトマト土壌病害総合防除技術の開発」

▶ **トマト青枯病**は連作に伴い全国各地で発生し、
毎年大きな被害を出しています。



▶ そこで、慣行の接ぎ木(子葉上に接ぐ)より**高い位置**(第2、3葉の上)に**接いだ高接ぎ苗**を利用した防除技術を開発しました。

高接ぎ苗と慣行接ぎ木苗

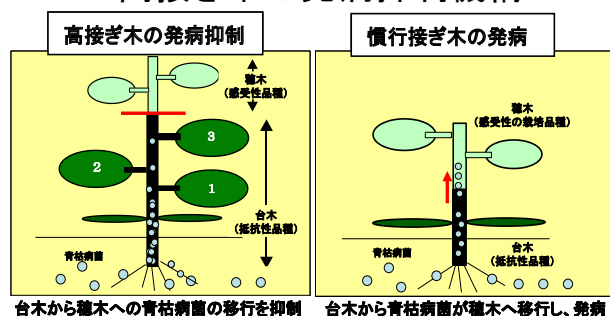


高接ぎ木栽培による
青枯病防除効果



右の慣行区では青枯病多発

高接ぎ木の発病抑制機構



高接ぎ木法は、従来の慣行接ぎ木よりも
高い青枯病防除効果を発揮します。

高接ぎ木法は、抵抗性台木の機能をフル活用し、
トマトの安定生産を確保する環境に優しい防除法です。

本成果は、山口県農林総合技術センター、新潟県農業総合研究所、北海道立総合研究機構花・野菜技術センター、ベルグアース(株)との共同研究による成果です。



農研機構

中央農業総合研究センター病害虫研究領域